

峡谷にアーチを
みせる

河内川砂防ダム



河内川砂防ダムは、日本海に注ぐ二級河川河内川の上流域鳥取市鹿野町河内に設けられています。河内川砂防ダムの構造はコンクリート製アーチ形式で、堤高 22m、堤長 39.5m、天端幅 1.2～1.8m と、砂防ダムとしては大型に属します。アーチ式ダムは、富山県の黒部ダムに代表されるように、発電や貯水を目的とした大規模ダムに多く見られます。河内川砂防ダム建設予定地は谷が狭く、両岸に堅い岩盤が露出しており、アーチ式ダム建設には適していたためですが、砂防ダムでは例が少なく、本ダムは全国的にも貴重といえます。

河内地区は、鷲峰山を初めとする標高 700～1,000m 級の急峻な山々に取り囲まれた狭い地域で、無数の谷が集まるといった典型的な集水地形となっています。このため土砂による被害に悩まされており、地元では早急な対策が望まれていました。「河内川上流砂防工事施行に関する請願」が昭和 26～27 年にかけて行われましたが、鳥取県だけでも 40 箇所近い砂防工事が請願されており、事業化には至りませんでした。対策ができぬまま、鳥取県東中部は昭和 34 年の伊勢湾台風（アーカイブス：中国地方の自然災害記録）で甚大な被害を受け、鳥取県中部の山間部における河川砂防整備の必要性が検討されました。河内地区の砂防工事を要望して 10 年、ようやく砂防ダムの建設が緒に就いたのでした。

こうして「河内川特殊緊急砂防工事」は鳥取県が行い、(株)藤原組が施工しました。昭和 35 (1960) 年 10 月に着工、昭和 37 年 3 月に完成しています。ダムの規模、建設地を考えると難工事だったでしょうが、さらに難しくさせたのが、昭和 36 年 9 月の「第二室戸台風」の襲来でした。それでも遅れることなく完成しました。

それから半世紀後、平成 23 年 9 月の台風 12 号は鹿野に 555mm の大雨をもたらし、河内地区もその災害関連緊急治山工事として河内川ダムの上流に谷止工が建設されました。本ダムが生活圏への土砂流出を防ぐ最後の砦であるという位置づけに変わりはなく、今も地域やそこに暮らす人々の安全を守り続けている証であることは確かといえます。



平成 23 年度災害関連緊急治山工事で施工された谷止工（堤長 32.3 m、堤高 7.0 m）

■位置図



河内川砂防ダム施工中
(株式会社藤原組提供)

【鳥取県 <https://www.pref.tottori.lg.jp/263978.htm> 転載】



上流面からの河内川砂防ダム



河内川砂防ダム
後背地には大きなため池ができ、一見貯水ダムかと思われる姿をしている